

〔天保集成絲綸錄 八十九〕天明八申年十一月

御目付 江

蠟燭受取候斷之儀、非常其外無據差懸假受取ニいたし候儀も有之候は、右之分は其翌日御賄所 江之斷書差出可申候、斷延引ニ無之様、蠟燭受取候向々 江可被達候事、

天明八申年十二月

御目付 江

先達而相達候諸向役所入用受取物位下ゲ員數減方等之儀、諸色不殘取調候迄者、餘程手間取可申ニ付、右之内先蠟燭之分相糺、早々可被申聞候、向々受取高以來小形相用候は、懸ケ目減候丈、御益ニ相成候間、右様之所をも厚く勘弁可被致候、

十二月

蠟燭商

〔明和 京羽二重三〕諸職名匠

蠟燭屋 七本松通笹屋町 越後屋德兵衛 室町上立賣上ル町 十一屋清兵衛

中立賣烏丸西 江入町 三河屋理兵衛 烏丸上長者町下ル町 三文字屋三右衛門 麩屋

町姉小路上ル町 本前九右衛門

〔國花萬葉記 六 攝津〕大坂名匠諸職商人並諸問屋

掛蠟燭屋 兩替町 對馬守 谷町 河内屋庄兵衛 尼崎町 さくらや長兵衛

梶木町 難波や與左衛門 舟町 塚本や庄右衛門 今橋筋 堺筋 御堂之前南北ニ有

〔天保十一年武鑑〕御蠟燭屋

大門通 丁 佐藤四郎兵衛 本所みどり丁 落合傳左衛門

〔江戸總鹿子 六〕蠟燭屋